

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿									平成 18 年 3 月 31 日				
課 題 番 号	1	7	9	0	7	0	1	6					
研 究 課 題 名	不登校児童生徒を対象としたものづくり体験活動用教材の開発と評価												
研究概要(研究目的、研究方法、研究成果等を記入する。)													
<p><b>研究目的</b></p> <p>本研究は、不登校児童生徒を対象としたものづくり体験活動用教材を開発し、実際に適応指導教室に通う不登校児童生徒を対象に実践を行う。さらに、アンケート調査を行い、その結果をもとに、開発した教材の教育的効果及び、有用性について検討することを目的とした。</p> <p><b>研究成果</b></p> <p>本研究では不登校児童生徒を対象としたものづくり体験活動用教材の開発およびその評価を行った。具体的には、表に示す教材を開発・選定し、不登校児童生徒を対象に体験活動を行った。体験活動は15～20名の児童生徒を対象に月に一度、計10回実施した。</p> <p style="text-align: center;">表 平成17年度に実施したもののづくり体験活動内容</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">開発・選定した題材</td> <td>竹とんぼ、竹の箸、小物入れ、紙鉄砲・ケナフで作る小物、アルミの笛・アルミ缶の風車、スパイスラック、ペットボトルで作るクリスマスツリー、モーターを使ったサイクロン型掃除機、プランター入れ・CD ホバー(2 回取り扱い)</td> </tr> </table> <p>また、本研究において、適応指導教室(教育支援センター)におけるものづくり教材開発の視点として以下の4つの提案を行った。          ①高い指導技術を必要としないこと、②児童生徒の実態・学齢及び発達段階に応じた作業難易度の選択が可能であること、③ゆるやかな共同作業の場の設定が可能であること、④達成感・充実感が繰り返し体験できること。          さらに、開発したもののづくり教材に対するアンケート調査(適応指導教室嘱託員)の結果から、⑤児童生徒に対する適切な声かけ          ⑥若干高め製作難易度の設定 等の視点が効果的な教材開発において、必要であることが明らかとなった。          これらの視点にこれまで技術教育で題材開発の視点としてきた、⑦児童生徒の興味関心、⑧日常生活で活用できる、⑨適切な施設と工具の使用、⑩安全性の確保の4つを加えた視点をふまえた教材は人と積極的に関わろうとする力である“ソーシャルスキル”や、自ずから課題に取り組む力“セルフコントロール”の育成に有効であり、不登校児童生徒の社会的自立に資する。</p> <p>別紙：不登校児童生徒を対象としたものづくり体験活動の展開，平成 17 年度 12 月適応指導教室におけるものづくり教室について</p>												開発・選定した題材	竹とんぼ、竹の箸、小物入れ、紙鉄砲・ケナフで作る小物、アルミの笛・アルミ缶の風車、スパイスラック、ペットボトルで作るクリスマスツリー、モーターを使ったサイクロン型掃除機、プランター入れ・CD ホバー(2 回取り扱い)
開発・選定した題材	竹とんぼ、竹の箸、小物入れ、紙鉄砲・ケナフで作る小物、アルミの笛・アルミ缶の風車、スパイスラック、ペットボトルで作るクリスマスツリー、モーターを使ったサイクロン型掃除機、プランター入れ・CD ホバー(2 回取り扱い)												
<p>研究発表：論文や研究会等で本研究について発表した場合、その論文名（講演題目）、発表学会誌名（講演会名）、発行（講演）年月日等を記入すること。</p>													
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不登校児童生徒を対象としたものづくり体験活動用教材の開発,日本産業技術教育学会九州支部論文集,第13巻(2005),pp.61-66,2005</li> <li>・ 不登校児童生徒を対象としたものづくり体験活動の展開—達成感、充実感を重視したもののづくり体験活動用教材の開発一,第18回日本産業技術教育学会九州支部大会（大分大学）,2005年10月30日</li> </ul>													